



天方てい子

京都と言っても裏日本側に入る丹後地方は非常に雨の多い所です。昨年度の保育日数二三日のうち晴天一二八日雨天六二日雪降り七日曇が三五日となっており平均三日に一度は雨ふりということになります。

私たちはこのように雨が多い条件に馴れてしまつて殊さら雨の日という意識が薄くなつてしまひ無頓着に過ごしてしまつてゐるので、殊さらに雨の日の保育にどれほど工夫がされているのかと問われて考えるときとまどうような気持になります。けれども無意識に過ごしているかもしれないというものの、雨の日は、晴の日と幼稚園教育のすべてが同じではないわけです。

幼稚園の生活において指導計画による單元が展開される場合、雨の日として影響をうける一番問題になる場合は、園庭での生活ではないかと思ひます。裏日本の幼稚園では屋外生活活動の活発な期間は、第一学期

第二学期で、第三学期は積雪地域であるためほとんど外で過ごすことが出来なくなりまふ。だから屋外運動場の使用出来る日数は三日に二日はおろか、三日に一日もなく なります。屋外での活動が雨や雪によって阻止された場合どのように工夫されているのでしょうか。雨ふりになりますと、

a 屋外の生活活動をそっくりそのまま、場を屋内に移す場合、

b 場を移しその上にもうひとつ教師の工夫が加えられる場合、

c 雨の日は雨の日ならではの積極的な工夫を考慮する場合、

と大別してみました。

a の場合は園庭で大筋肉を十分につかい、大きな動きのあるしかも運動量の多い遊び、例えば陣とり、かけっこ、ボール遊び、鬼ごっこなどは、そのまま比較的広い遊戯室に移すことが出来ます。また遊具を利用しての遊びも遊戯室や広い廊下などに遊具を置くことによつて、さしざわりなく遊びをつづけることが出来ます。大方の幼稚園でも室内遊具として置いてあるところの、マット、大積木、押し車、平均台、スベリ台、シーソー、ボール、なわとび用

具、つりあみなどは各種の身体的効果をねらうに役立つものでありまふ。また教室にはままごとセット、積木、絵本類、楽器などがありますが、これらは晴天の時にもつかわれますが雨の日になりますと、フルに活用されます。机も必要なきときは部屋のまわりに片寄せ中央を広くとつておきます。この屋外の場をそのまま屋内に移すという段階では出来るだけ広い遊び室が必要でふ。裏日本の学校などで雨天体操場が校舎に不つりあいなほど立派なのは、このような考慮が含まれているのでふ。そして有意義に活用出来る遊具を配置よく備えることなどが望ましい工夫と言えまふようか。

b の場合はそれにもうひとつ教師の工夫がプラスされるわけですが、園庭坪数数よりも、広い遊び室をもつている幼稚園は、現在まふ少ないでふ。すると屋外の活動を屋内におきかえるのでは、いろいろな面で制約を受けまふ。思うように活躍しまふと人によつたり、物によつたりするでふ。だからひとつの子どもの占める場所を広くとらないで、しかも運動量もある程度満たすにはどうしたらよいか、場

所を円形あるいは縦列に整理し楽しく効果的に動く方法として、室内遊ぎ(ゲーム)が考えられます。これにはたいいて音楽とリズムの遊びが考えられ身体的な訓練と統合した形態が考えられます。戸外では楽器器を使用した遊びがしにくいので、雨の日の室内遊びとして、まだまだ工夫の余地があるのではないのでしょうか。このような遊びをする事によってリズム感覚の訓練、音楽力、注意集中力など、この時期に経験することによって身につくと言われる大事な感覚の訓練が出来るのではないかと思えます。そして更に重要な社会性の陶冶という面からは、園庭の広い場所では目のとどきかねることもありまとき、少数の集団にまとまって遊ぶことにより、順番を守るとかゲームのルールを正確に守らなければならぬとか自己中心的な行為は通らぬとか友だちと仲よくしたり協力したりするというようなことを指導することが出来ませうでしょう。これらがばらばらにあるのではなくてこれが更に身体的な成長を促すための訓練と結合して完全な屋内の遊びを構成したいものです。遊びの方法・種類については専門の書もあり、発達段階に適した

ものを選んで、準備出来ます。音あてごっこ、マーチを主にしたゲーム椅子とり、大きな象さん、羅漢まわしなど遊ぶ遊びを数えてゆけばきりがありません。幼児の心身の発達段階を見つめつつ、遊びについての要素が統合されたものが研究されること、がここでは更に大事な問題として考えられます。

さて最後にcの考え方が残りましたが、これが実は問題の中心点ではないかと思わずくわけです。aの場合は、場を屋内に移すだけで、物的環境を配慮すれば、問題は解決するとすまことも出来ましよう。更にbの場合は教師の工夫をプラスして教育的に雨の日を有意義に活かされるように研究をする。これらは天気の日を生活活動を雨によってマイナスにならないように現状を守るのにどのような工夫がされなければならぬか、という消極的な考慮であった、雨の日だからこそ、こういう望ましい経験をと、というような積極的な工夫が欠け易いのではないかと思うのです。一年のうち殆どを雨や雪にとじこめられている裏日本の現状の中で、初めに書いたように雨の日を雨の日と意識しないで、%を室内指導に

過ごさねばならないところに、教師の気づかない、遊びの指導のマンネリズムがあるのではないのでしょうか。雨の日は陰鬱で人の気持を滅入らせ、意欲がそがれる、こんな気持が積極的にものを考えようとする力を喪失せしめているのかもしれない。雨の日はいやなもの逃避的な気持にならないで雨の日をがっちり受けとめ、積極的にとくんで工夫をすることこそ、私たちに課せられた課題でありましよう。雨の日の工夫として最初にこのcの考えがうち出され、その後につづくのがaとbであるべきであるのに私もa・bを考えているうちにこんなことでよいはずはないとcの課題にぶつかって来たわけです。aもbもそれぞれの使命をもっておりますが、cの重要な使命は雨のために、とじこめられた子どもの中からかぎりなく湧き出るところのエネルギーを、この生命力を、どのようにとり扱ったらいいか、また身体的精神的成長が一日の休みもなく伸びつづけるこの時期を満たすための具体的な例としては、

(4) 身体的な充実感を満たすために  
○級対抗相撲「男女とも力量のつりあ  
大会」  
「いを考えて参加させる」

○マット遊び  
の工夫

いろいろなとび方を工夫する。うさぎとび、トンネル、両足とび、横まわり、背合わせとび、ろがり、ジクザクとび

○なわとびの工夫

男女別に全児を二組にわけ音楽に合わせてとびながら場所交換。とび方のコンクールをする。

○フオークダンス

全児遊戯室でフオークダンスをする。

○地方の盆おどり

太鼓などたたいて陽気におどる。

(四) 精神的な充実感を満たすには、園児全体が分散して各自、自分から遊びをえらび、それを発展出来るように変化にとんだいろいろな場を用意する。

○利用出来る廊下に大黒板を下げ色チヨークを揃えて置く。

○ある部屋には布、紙など手技材料を用意し、描き、切り、作って遊ぶ。ペーパーボードや人形芝居用の人物を作り、言語遊びまで発展さす。

○既製の遊具だけでなくおもしろ味のある不用品をとり揃えて(フィルム使用後の金具、紙質のよい古カレンダー、自然の物など)これを用いて創作的遊具をつくって遊ぶ。

○色音符に親しみ、楽器を自由にたのしむことが出来るようオルガン、木琴、鉄琴に色別に紙をはっておく。

○観察の資料を集め、じっくり観察出来るよう、いろいろな自然物や科学的なもの準備する。

これらの工夫には際限がありませんが、これでもいけなかつた次にはどうしたらよいだろうと、悩むことによつてまた工夫も変わってくることでありましょう。今日は戸外生活と範囲を区ぎつて考えてみました。自由遊びと六領域との関係は分けられるものではありませんし、六領域全般についての雨の日の工夫の仕方もあると思います。これに関連して地方的気質の特徴なども気候との関連において調べてみました。が、この地方人の特質として陰気で内攻的ではありますが、傑出した宗教家の多く出ている事実を知り雨の多いという自然の影響によるものかどうか断定出来ません。静かに落付いた内省的な特質は何か天候による生活上の制約と関係があるようにも思われますが、その上に活動的な解放感にみちた明かるさや積極性を営むことは欲ばりでしょうか。

(宮津幼稚園)



吉田 貞

雨の生活には免疫になつていよう生活のなかで、保育者は、保育の工夫に努力してはおりますが、子どもたちは、それ程雨に屈託するようすもなく、日々を楽しんでおります。やはり、一般論としての、室内に閉じこめられ精力をもて余し、遂に乱暴となる。あるいは場所的に限られた狭い室内で、のびのびと活動できない為、こども同志の衝突・喧嘩が起るなど、多間に洩れない問題行動もよくあらわれるようす。しかし、晴れ間を利用して、戸外に出す工夫や努力をしなくても、外に飛び出し清新の気を胸一ぱいに吸うこどもたちであります。雨に屈託しなくとも、晴天を渴望しているこどもたちであることを思います。雨の日を明かるく楽しく保育したいと念願し次の諸点を常に頭においております。

1 健康管理の万全を図り、健康生活およ

び健康増進のための遊びをどのように楽しんでさせるか。

2 限られた場所で幼児なりに協調し、活用し、自主的な生活態度を持ち、また社会性を育てるか。

3 雨の日もまた楽し、と、雨にすずんで親しめる教育内容を、どのように感受させ、自然への関心、科学への芽を伸ばしていくか。

4 個性伸長のため、どのようにして、明らかく、生きいきと、個々の表現活動・創造性を発揮させるか。

#### 環境構成ならびに指導法

過去四か年、四か所の園舎を転々とし、本年また移転する運びとなっております。室内には、テラスに屋根をつくるか、室内に砂場を設けるとかといった施設的な物的環境整備への期待は、とても望むべくもなく、取りこわしの運命にあった園舎の時には、昨年の幼児の教育第二号で紹介いたしました床上の利用、空間の利用が精一ぱいのごとでありました。ですから現在も、できるだけ室内遊びの遊具を活動の場に支障のない限り豊かに揃えること、また、はずれ

る窓のないように、とげがささらないように、水溜りをつくらぬようにといった安全への配慮や、また、手洗場、飼育小屋などの清潔・衛生への心づかいにより、雨の日に限らず心をくだいでいることであります。

そして私どもは、環境の整備が保育効果への大きな力と信じておりますが、それ以上に、幼児たちのよりよい成長のために、よりよい保育のために、心から現実という場の上で計画を密にし、指導技術を高めることが大切であると思えます。計画と技術が、保育への愛情に支えられた車の両輪となつて、保育効果を高めると信じております。

特に雨の日の保育の場合、たまたまの雨であれば、雨を取材とした保育内容も相当豊富にありますので、単に取入れて遊ぶだけでなく楽しく保育が展開されますが、連日の雨となりますと、計画を十二分にし、その指導技術にまたなければ、とても終始楽しい保育は望まれないと思えます。そしてその技術は、単なる口先や手先にあやつられるものでなく、深い愛情に支えられた教師の信念から、湧きでてくるものでなければなりません。

次は、その心構えとして、常に実践に留意している事がらであります。

1 取扱いが単調であつてはならない。

同じ遊びでも、幼児が中心になったり、教師が中心になったり、場所的にまた時間的に、その遊びの流れにおいて、常に新しく興味を誘うものでありたいと思えます。

また形態も、自由・一斉の取扱いが当を得、また内容においても、歌に絵に、あるいはラジオに、テレビにと、常に対象や中心を、変化に富ませていきたいと望んでおります。また私どもはその取扱いの具体を、劇的な運び方として実践してまいりました。

従来、ともすると、表現会や発表会のために劇あそびが存在するかのようになり、劇あそびの本質的な価値というものを無視しがちであった考え方より脱却し、子どもたちの生活の好ましい形の綜合体として、こどもたちの無限の空想力を誘導し、その生活するさまざまの場で、あきることなく、楽しく遊ばせてまいりました。雨の日は特に、身近かに全体を把握できますし、その雰囲気から生まれた一

2 自主的に自由に必要なものを生かしてフルに使用させる。

製作の素材・楽器・レコード・ラジオなど自由に、フルに愛用して破損するの惜しむより喜びたい気持を持ちたいと思います。

3 保育教材に精通すること。

取扱いを豊かにするためには教師の周到な思いやりのある指導準備を整えることとであります。汲めどもくめども種子ぎれしない豊かな話の数々を持つことや、場に即した歌やリズムを機に応じ引き出せることであると思います。その為には教師は、いつまでも若い情熱で読書し、研究会にすすんで参加するなど、その道の探究につとめたいものであります。

4 適当な時間にきりかえること。

ここまで計画したのだから、せっかく準備も整えたのだからと計画に縛られて、こどもを疲れさせることなく微妙なこどもの心の動きに応じつつ、あっさり

と切りかえる心のゆとりが大切であると思います。

5 遊び自体に変化と発展性をもたせること。

変化を除々に与え常に気分を新しくしていくことは、その遊びを複雑化することではないと思います。遊び方に変化や発展性を持たせることと、遊びの単純化とは矛盾しないと思います。複雑化してこどもを迷わしたり、抵抗を与えては、かえって興味を失います。ボール遊びに例をとりますと、ボールの当てっこにしても円陣であるいは方形で、あるいは転がしあるいは持つて、ということにした

り、当った人の次の活動方法を考えて、同じ比重で遊びに参加させたり、あるいはボール送りで誰までが終っているのか、複雑化したようであるが一目で判るような、単純な並び方や実施の方法にと、幼児の発達に即した単純性と興味性を考えた変化発展を心したいと思えます。

6 精力の使いどころを与えること。

個性を生かしていくこと。  
個人の欲求を、それぞれ十分に満たし

てまいりたいと思います。特に雨の日といった時に問題行動を起ししやすい個人の指導が大切であります。個人を知り、その個性を伸長する資料のために、毎日、保育内容研究以上の時間をかけて、個人個人の記録をとってまいりました。単に記録にとどまることなく、常に反省しつつ、方針を明確にし個人を育ててまいりました。個を育てることは、全体を育てることにも通じると思います。

7 問題行動があった時、そそうがあった時など手際よく処置する。

など、地についた実践への心構えが必要であると思います。

× ×

入園して初めての遠足も終って迎えた本日はちょうど雨でした。朝の出迎えや視診に、より注意深く接し、昨日の遠足の思い出を、リズムに粘土遊びにと劇的に再現し、こどもたちは嬉々として雨の中を退園いたしました。雨具の扱い方や雨中の歩行に心を配りつつ、無事乗車して去るこどもたちの姿に、私どもも、ホッとその責を果した喜びに浸りました。

(金沢大学付属幼稚園)